



奥山の大木
里に下りて
神となる

西春近 諏訪形 御柱祭



10月1日(土)

- 午前11時00分……騎馬行列 長持ち
- 午後2時35分……里曳き (一の柱)
- 午後6時00分……建て御柱 (一の柱)

9月4日(日)

- 午前8時30分…山出し～建て御柱
(二、三、四の柱、子供の柱)
- 午後11時30分…山出し (一の柱)

10月2日(日)

- 午前9時00分…獅子引き
獅子舞 囃子方 (於 諏訪神社)



お問合せ先

諏訪神社氏子総代 090-1031-8129
宮司 花畑 樹彦 0265-73-3431

騎馬行列

西春近 御柱祭 諏訪形



■諏訪形(伊那市西春近)と諏訪神社

諏訪形(すわがた)という地名は、「諏訪県(すわあがた)が諏訪形と呼ばれるようになったもので、古代県(あがた)制の中で、諏訪信仰の先鋒的基地の役割をもった、諏訪外県(とあがた)の大事な集落であった」といわれており、伊那市西春近のほか、上田市、松川町上片桐にも同じ地名が残っている。

西春近諏訪形の諏訪神社は同区民を氏子とし、その鎮座する地を字「諏訪ノ森」という。土地の口伝によれば、応永元年(1394)、現在地の北方約150メートルの地に創立されたが、その後、応永34年(1427)6月の大洪水により

社地が流出。現在地に遷座したという。毎年10月の例祭には、獅子舞、獅子引き、隣子方、長持ちなど様々な行事で境内が賑わう。また、諏訪大社上社の御頭祭(おんとうさい)に由来する酉祭(とりまつり・毎年4月)も継承されており、諏訪形には諏訪信仰の古い歴史が息づいている。

■御柱祭と騎馬行列きばぎょうれつ ～伊那市無形民俗文化財～

諏訪形の御柱祭は諏訪大社と同じ年、申と寅の年に、斧入れ、縄ない、山出し、里曳き、建て御柱など多くの氏子が出て盛大に行われる。他地区の御柱祭は大社に倣(なら)い春の時期が多いが、諏訪形では秋に開催してきており、特徴の一つとなっている。

里曳きには御柱の前衛として騎馬行列(きばぎょうれつ)を仕立て、集落から神社までを練り歩く。行列は大将(たいしょう)一名と馬一頭、その従者二十数名からなり、殿様役の大将は氏子のうちから男子児童が選ばれ、陣笠(じんがさ)に陣羽織(じんばおり)の姿で常刀(たいとう)し、道中を騎乗してゆく。前後の従者は、大将の警護役、道具の運び役などで、役ごとに定まった衣装を着けた氏子が演じる。「ええー こーれわさあ とぅーなー」かけ声にあわせ

全員が手をあげ足を振り出す。その重々しい動作、ゆったりとした歩みは、往来に厳粛な空気を生み出す。一方、演舞の合い間には道具を使った曲芸の披露、さらには道化役のしぐさも加わり、集まった人々を沸かせている。

建て御柱は、毎回、日の暮れる頃に始まる。境内の夕闇がその濃さをますなか、焚かれた照明に映るのは横たわる御柱が凜々しく静かに建ちゆく姿。「奥山の大木 里に下りて神となる」その瞬間。神々しい光景に、境内を埋める氏子の熱気は異様なものとなる。平成9年(1997)、諏訪形の御柱祭と騎馬行列は、伊那市無形民俗文化財に指定された。



■諏訪形木遣りの会きや

御柱祭の要所要所、氏子が力を合わせるとき、人々の心をつなぐ束ねる木遣りだが、かつて、諏訪形では御柱の年を迎えるたび「木遣り班」を結成するものの、その活動は年内の披露に留まっていた。

今から約20年前、有志が集まって「木遣りの会」を結成。御柱の無い年にも活動し、毎年、諏訪神社の例祭、地区の敬老会などで木遣りを披露。行事を盛り上げてきた。地域の伝統芸能である木遣りを後世に継承すべく、自らの研鑽、後進の育成に努めている。

